カトリック二俣川教会
教会だより
２０２５年９月号
No.385
（２０２５年８月３１日 発行）

二十六聖人

《ペトロ ホアン ドゥック ナン神父様 司祭叙階特集号》

カトリック二俣川教会　TEL 045-391-6296　http://www.futamatagawa-cc.com/

巻頭言：敬老のお祝い

9月を迎え多くの教会では敬老のお祝いがあり、二俣川教会でも9月14日にミサと懇親会が行われます。当日はたくさんの方が来られると思いますが、教会共同体として一緒にお祈りしていただければ嬉しいです。

フランシスコ前教皇は2021年から、聖ヨアキムと聖アンナの祝日である7月26日に近い7月第4日曜日を「祖父母と高齢者のための世界祈願日」と定められました。この日は、聖ヨアキムと聖アンナは聖母マリアのご両親なので、イエスの祖父母にあたるわけなので、ある意味でふさわしい日が選ばれたと思いますが、日本では、敬老の日(9月15日、現在は9月第3月曜日)が法制化されて50年以上の歴史があります。昨年からこの「祖父母と高齢者のための世界祈願日」が「敬老の日」の前日に移動することになりました。

今までの7月の第4日曜日も、教会の暦としてはふさわしい日ではありますが、それでも、日本では敬老の日があり、それに合わせて教会でも祈りやお祝いがずっとされてきました。ただ、他国の教会ではこのような高齢者を祝う風習がほとんど無いため、この世界祈願日が出来たとされています。

このような中、フランシスコ前教皇は、その祝日に自分の祖父母への感謝と、孤独な日々を送るご高齢の方々への優しさを示すようにと勧めておられます。特に、次のように若者たちに呼びかけています。「親愛なる若者たち、高齢者の方々お一人お一人が皆さんの祖父であり、祖母なのです。祖父母を独りぼっちにしないでください。愛の創造力を活かしましょう。電話やビデオ通話をしたり、メッセージを送ったり、話を聴いたり、もしできるなら衛生上の規則を守った上で訪問してください。」

このメッセージを通して子どもたちや青年たちも自分の祖父母や教会の方たちに少しでもこうした気持ちを持ってもらえたら嬉しいと思います。

そして、この祈願日では毎年教皇様がメッセージを出されています。
特に敬老のお祝いの方々には、案内等と一緒に送りましたので、ぜひ読んでいただければと思います。

フランシスコ前教皇が今年選ばれたテーマは、「希望を失うことのない人は、幸いだ」です（参照 シラ書 14,2）。
シラ書から引用されたこの言葉は、お年寄りの深い幸福感と、キリスト教的で和解した老後のための道として、主の中に置かれた希望を示しています。

今年の聖年、フランシスコ前教皇により2021年に設けられた同祈願日を「祖父母や高齢者の存在が、いかに各家庭や教会共同体の中で希望のしるしとなり得るか」を考える機会とすることが望まれていると書かれています。

日本においては、この日のミサを高齢者のために捧げ、お年寄りへの訪問や、異なる世代間の出会いの機会を促すようにとの教皇の招きを、すべての人に向け新たにしています。

改めて私たちは身近な家族や、教会等での祖父母や高齢者の方々のために祈ると同時に世界にいるすべての祖父母、高齢者の方々ためにも心を一つにして祈りを捧げていくことが出来ればと思います。

マキシミリアノ・マリア・コルベ　内藤 聡

2025 年 8 月 （8 月１０日 開催）

【検討・報告事項】

１．事務所アンケートの信徒意見検討
アンケート回答は全 6 通でした。うち 2 通は現在の事務所を肯定する意見でした。

①「信徒でない人、心を病む人、話をしたいだけの人に対して事務員が教会の顔となるべき。」
未信者や心を病む人と適切に面談するには専門的訓練が不可欠です。また、話をしたいだけの人が友人知人なら問題ありませんが、そうでないときは一定のリスクを考慮せざるを得ません。

②「有給パートタイマー事務員を雇用して欲しい。」
多くの方に教会事務に携わって貰い、各団体やグループの事務所への依存具合を見直し、誰が働いても事務作業を停滞させずに済むような体制に整えようとしている道半ばです。信徒が司祭に直接相談したり頼むこともできる、垣根のない教会を作るチャンスとも考えています。また、ボランティアと有給事務員の混在は容易では無いこともあり、当面、有給事務員は雇用しません。

③「開所時間を延長して欲しい。特に土曜日の開所。」
教会事務所の業務量はそれほど多くなく、急を要さないことがほとんどです。またボランティア不在時の急用は神父様が対応してくださいますので、平日の開所時間の延長は行いません。一方、土曜日の開所への要望が強いので、土曜ボランティアの検討を神父様に進言しました。

④「帰天者連絡時に誰の親族か付け加えて欲しい。」
いくつか難しい問題があります。まず、訃報は緊急連絡なので親族関係を調べる時間的余裕がほとんどなく、どうしても親族関係のある訃報とない訃報に分かれてしまいます。また、個人情報の一斉送信にあたるのでご遺族の許可も必要になります。そのため、現在は訃報に親族関係を載せていません。もちろん、ご遺族の意向があれば載せますし、事務所に問い合わせて頂けばお答えできます。

⑤「郵便物が担当委員会等に届かない。」
各委員会は定期的に事務所の郵便物トレイを確認することになっています。

⑥「地区の転入転出者が分かりにくい。」
毎週発行される「今週のお知らせ」に掲載されています。

⑦「ミサ献金を一人で数えていた。複数人で行うべき。」
いつも二人以上で数えています。たまたま二人のうち一人が席を外したのを目撃されたのだと思います。

【報告事項】

１．ナン神父様叙階式、母国出身教会での前夜祭・初ミサの様子が報告されました。

2．2025 年バザー　来月 9 月下旬から 10 月・12 月両バザーの献品を集荷します。献品方法は昨年とほぼ同じになる予定です。詳細は後日お知らせします。

【各会報告(抜粋) 】

1．典礼委員会

・「すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り」を拝領祈願の後に行います 。
・ロザリオの祈り(10 月中)毎ミサの 20 分前から一連のみ。日曜日主日 7 時のミサ前には行いません。

2．教会学校

・7/26 サマースクール　皆様の協力のもと楽しく過ごせました。差入れや献金などたくさんのご支援を頂きました。有難うございました。
・初聖体を終えた子供たちが 9 月から侍者デビューします。温かく見守ってください。

3．キリスト教講座

入門講座への参加申込が遅れた受講者のために 8/9、23 に一期のまとめの集中講座を行います。次期講座は 9/13（土）開始です。

4．財務委員会

教区に来年度予算を報告する必要があるので、昨年に比べて来年度予算が大きく変動する見込みがあるなら 9 月教会委員会までに財務に報告してください。

5．福祉委員会

7/10 横浜療育医療センターグループの集いを行いました。9/21、11/23 ミサ後～12:30 にクリスマスカード作り、またクリスマスのメッセージ動画を作成する予定です。

6．ヨゼフ会

・7/27 コーヒー光実施、8 月は活動予定なし。
・9/14 敬老の集いでコーヒー提供予定、9/21 定例会予定。

7．マリア会

・マリア会運営 7/10 実施、8/21 予定
・7/20 マリア会第 2 回例会　「カレーの日」としてキーマカレーを準備。
・パーティー係
9/14 敬老の集い　8/30（土）11 時から打合せ、前日 15 時から準備、当日 8 時から厨房作業。9/28 ナン神父様初ミサ　前日午後と当日朝に準備。
・アンナ会　7/14,28 活動、8 月は休会。
・ステラマリス帽子を編む会　7/18,24 活動、8/22、28 活動予定
・ボリビア支援グループ　7/10 会議実施、7/24「のんびり日曜日」実施、同日「ボリビアの風だより」発行、8/29 会議予定、8/31「のんびり日曜日」予定。

8．青年会

・ナン助祭司祭叙階式（8/4）に向けて青年会主体でメッセージ入り写真アルバム、モザイクアートを作成してナン神父様にプレゼントしました。信徒のみなさんのご協力に感謝します。
・8/23,24 に第三地区中高生夏企画をおこないます。一日目は二俣川教会(一泊)、二日目に磯子教会へ移動。一日目にお風呂送迎や料理の手伝いで皆様のお力を借りながらスタッフ主体で進めていきたいと思います。皆様のお祈りと見守りをよろしくお願いします。

9．インターファミリー

ナン新司祭の初ミサ（9/28 難民移住移動者の日）で、外国語の朗読や共同祈願を行います。また、ミサ後の祝賀パーティーでは各国の料理での協力を検討しています。

以上

ベトナム叙階式参列ツアー参加記（(叙階式編)）

8月3日、ベトナムはホーチミンシティに降り立った19名のツアーメンバーは、美味しいベトナム料理の夕食に舌鼓をうち、ホテルに戻ってナン神父様の初ミサ祝賀会での歌のパフォーマンス練習や、修道会の管区長神父様や出身教区の司教様、ご家族への贈り物準備に精を出しました。

いよいよ8月4日叙階式の日。ホテルから1時間と少しの場所にある、信仰の宣教修道会本部へと向かいました。移動のバス車中は、絶好の歌練習チャンス。ホーチミンでの現地ガイドもバスの運転手もみんなカトリック信者。心置きなく声高らかに練習に励みました。たどり着いた叙階式会場は溢れんばかりの人、人、人…3000人は集まったと後で聞きました。

朝8時、ペトロ ホアン ドゥック ナン助祭を含めた、信仰の宣教修道会の15名の助祭の司祭叙階式が始まりました。主司式は、修道会本部のあるフークオン教区の、ヨセフグェン・タン・トゥオク司教様。残念ながら完成に至らなかった修道会本部聖堂のそばに作られたテント張の叙階式会場は見事で、祭壇の後ろには叙階式のテーマ『信仰とは、望んでいる事柄を確信することです』ヘブライ書11.1aが書かれていました。

暑さと熱さが溢れ出す叙階式は、250名ほどの司祭たちによる長い長い入堂行列から始まりました。美しく迫力の歌声を響かせる神学生とシスターによる聖歌隊、そして日本から駆けつけた神父様方、そして梅村司教様の入堂のお姿に胸が熱くなりました。内陣には、修道会の兄弟たちと共に緊張の面持ちで前を見据えるナン助祭。ことばの典礼に続いて『叙階の儀』。滞りなく、美しく進む儀式の中で印象的だったのは、主司式の司教様を

はじめ、すべての参列司祭からいただく按手の様子でした。日本で働く大先輩のベトナム人神父様、ナン助祭をとても可愛がっておられる先輩神父様、お世話になった神父様、ひと足先に叙階された同級生神父様…。それぞれの想いが、祈りと祝福のうちに一つになっている様子がとても感動的でした。そして、息子が着ることとなる祭服を持ったご両親と共に、祭壇に向かって行列するナン助祭の姿もとても印象的でした。荘厳な叙階式にあって、それぞれの家族、それぞれの信仰、それぞれの人生が、唯一の父である神のもとに集められ、純粋な祈りのうちに一つとなる瞬間を目撃し、叙階式に参列することができたお恵みに心から感謝しました。

拝領祈願の後の修道会管区長神父様の挨拶では、梅村司教様と日本カトリック神学院の稲川神父様をはじめ、日本から駆けつけた神父様方、日本における出身教会の藤沢教会、二俣川教会、司牧実習の教会からベトナムに訪れた信徒たち、そしてこの場に集うことができなかった信徒たちまで思い起こし、感謝を述べ、祈りを約束してくださいました。

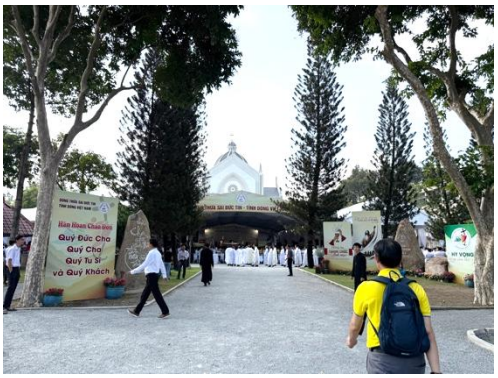
続く梅村司教様の挨拶では、信仰の宣教修道会と横浜教区が 25 年及ぶ歩みのうちにあることが語られ、これから新司祭含めて 5 名の宣教会司祭が横浜教区で働くこととなる感謝と、3 名の神学生のこれからの歩みにも期待を寄せておられました。

その後挨拶をされた稲川神父様は、入堂の際から涙したことを語られ、それはここに集まっている一人一人の顔に「希望」が現れていたからだと話されました。『28 年前の自分の叙階式より印象深い叙階式で、第 2 朗読の聖書箇所 “信仰とは望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです” という言葉そのものでした。ベトナム語は分かりませんが、司教様が説教の中で繰り返し語られた「ヒーボン」=「希望」だけは分かりました。今日ここでいただいた大きな「希望」を日本に帰ってわかちあいたいと思います。ナンさんとグエップさんとは 6 年間共に学びました。この 2 人を見ていつも、信仰が身体全体に現れていると感じていました。昨日ベトナムにきて、多くの出会い、そして修練院を訪れたりする中でわかりました。動物と一緒に生活し、自分たちのご飯を作って食べ、祈り、そういう生活が身体全体の信仰を作っていることがわかりました。』と話されていました。参列者の私たちの気持ちを代弁してくださっているような挨拶に、胸が熱くなりました。

叙階式を終えると、弾ける笑顔のナン新司祭に会うことができました。15 名の新司祭がそれぞれが、多くの家族や信者さんたちに囲まれ大賑わい、祝福をいただいたり、写真を撮ったりと、喜びを分かち合いました。ナン新司祭と、ほぼ完成している新聖堂の祭壇前で記念撮影をした私たちは野外に準備された祝賀会会場に案内されました。披露宴会場のように見事に準備された数えきれないほどの円卓には、たくさんの料理が用意され、とても心のこもったおもてなしに胸もお腹もいっぱいとなりました。

円卓に回って来てくださった梅村司教様と喜びを分かち合い、記念撮影。ハノイ近郊にあるナン神父様の出身教会での初ミサでの再会が楽しみになりました。信仰の宣教修道会の管区長神父様にもご挨拶をし、お祝いと日本から持参したお土産を差し上げることができました。もっと、ナン新司祭と語り合いたい気持ちを胸に「でまたハノイで！」と、足取り軽く、叙階式会場を後にしました。

次号へ続く



長い長い、入堂行列

入堂される、梅村司教様

諸聖人の連願で伏せる助祭たち

神父様方からの按手
(左) 稲川神父様
(右) 御年 92 歳の
ケンズ神父様

初めて祭服(カズラ)に
袖を通す…！

緊張を解かれ、笑顔
はじけるナン神父様！

ナン新司祭のために集った
皆さんで記念写真

とにかくスケールが違い、聖歌隊はプロとしか思えず、圧倒されましたが、時代が変わっても変わらないこと、世界のどこでも同じことが、カトリックの本質であり強みです。新司祭 15 人のうち、お 2 人が東京の神学校で学び横浜教区で働いて下さいます。梅村司教様のお話で、長年の信頼関係が実ったものであることがわかりました。

うみ やま こえて せんきょうし
ざびえる きてから よんひゃくごじゅうねん
(こんだ神父作のカトリックいろはかるた)

子どもの頃、若い頃の宣教師のイメージは、ザビエルの後継者として主にヨーロッパから来た神父様方でしたが、現代の日本への宣教師はヨーロッパからではなく、韓国やベトナムから来られているのでした。アルゼンチンやアメリカから教皇様の選ばれる 21 世紀ですから、当然なのでしょうが、ベトナム人の司祭、修道者、信徒が日本の教会の中で大きな役割を果たして下さっていることを今さらのように感じました。

ドンドンドン♬初ミサ前日に前夜祭があるので参加しませんか？とナン神父さまからお誘いを受け、司教館で夕食後、1 時間ほどバスに揺られてズイエンラン教会(出身教会)に向かいました。到着し主任神父さまや教会委員長のお迎えを受けご挨拶していると、ドンドンドン♬、太鼓がリズム良く聞こえてきます。会場を見渡すと大きな太鼓が数台とシンバルが、その隣には吹奏楽隊がずらりと並び、高らかに演奏しています。そして、ステージでは美しい衣装で着飾った子どもたちが次々とグループ毎に出てきて踊っています。近隣の教会からもお祝いに駆けつけ、地域一丸となってのお祝いのセレモニーは華やかで喜びに包まれ、活気に満ちていました。そして、何よりも子どもたちが明るく快活なのです。ナン神父さまの穏やかで爽やかな笑顔や優しい佇まいは、子どもの頃、この温かな教会で過ごされたからだと思います。ナン神父さまを育て見守ってきたご両親、そして教会が神父さまを日本に送り出してくださることに感謝の気持ちで一杯になりました。太鼓の音を聞いたときは経験したことのない光景にただただ驚くばかりでしたが、教会の方々の熱い想いと喜びが響き渡っていました。ドンドンドン♬

8 月 3 日ナン神父様の司祭叙階式、出身教会での初ミサに参列すべく、19 名の仲間たちとベトナムへ出発。成田⇒ホーチミン 2 泊⇒ハノイ 1 泊⇒成田(機中泊)の 3 泊 5 日の旅でした。司祭叙階式・教会訪問・司教館宿泊・初ミサ参加と素晴らしい時を過ごしました。3 日目のハノイ空港から司教館には 1 時間半ほどのバス移動でしたが、初ミサ後に披露する聖歌「希望の巡礼者」の一部はベトナム語で歌うのでかなり練習を重ね、完成度を見るためベトナムのガイドの方に聴いて頂いた評価は、予想外に 30 点と厳しい評価結果でちょっと落胆してしまいました。その日は前夜祭に招待いただきナン神父様の出身教会の皆さんと喜びをわかちあいました。前夜祭で喜びをわかちあったこともあり、翌日には子供達が笑顔とハイタッチで歓迎してくれ心が和みました。叙階式でも、初ミサでも緊張しつつも凛としたナン神父様は良き司牧者となり私達と共に歩んで下さるなと確信した時でもありました。さて 30 点と厳しい評価だった「希望の巡礼者」は出だしは日本語と言う事もあり、皆さん静かでしたが、ベトナム語で発声した瞬間に会場から小さな歓声が上がり、最後は会場も私たちも一体となり合唱となりました。30 点だった聖歌「希望の巡礼者」は、会場の皆さんの力を得て 100 点と完成した瞬間を体験することが出来ました。その時は高揚感のみでしたが、これは交

わりと一致であったと想います。感謝のうちに。

多くの方々のお力添えを頂き、準備した贈り物を携え、私たち一行十九名は、ベトナムの地に降り立ち、ホーチミンの溢れる活気の中、叙階式の日を迎えました。日本では目にすることなどないであろう十五名の叙階者が、連願の際に地に伏した姿、それに続く数百名と思しき集められた司祭たちの按手、出身教会での前夜祭、初ミサ、祝賀会、生まれて初めてベトナム語で書いたカード作成。それらがどんなに素晴らしく感動的であったかは、とても言葉で言い尽くせるものではありません。私は、生前父から「外国人の聖職者を大事にしなさい。彼らは祖国を離れ日本にいる我々信徒のために、日本で働いているのだから、感謝して大切にしなさい」と、何度か言われたことがあります。出身教会の皆様の歓迎と喜び、また、ナン司祭のご親戚、特にご両親の姿を拝見したとき、この言葉を思い出し、改めて深く胸に沁み込んでいきました。閉祭の歌は「ゆけ、ゆけ、地の果てまで」、一番はナン司祭が訳したベトナム語、二番は日本語の歌詞でした。空港での別れの際、ナン司祭から頂いたお菓子は、美しく美味でした。歌の選曲と言い、頂いたお菓子と言い、ナン司祭のセンスの良さを感じました。内藤神父様、そして皆様のお祈りに感謝いたします。ナン神父様、グウェップ神父様、司祭叙階おめでとうございます。

この度、ベトナム巡礼ツアーに参加し、現地の信徒の皆さんの熱い信仰心と、心を一つにするための工夫やアイデアの素晴らしさに深く感銘を受けました。叙階式、初ミサの前夜祭、そして初ミサに至るまで、日本とはまた異なる、純粋で素直な愛の形を心と身体で味わうことができました。特に印象的だったのは、テーマ曲「希望の巡礼者」です。バスの中で何度もベトナム語の歌詞を練習し、アトラクションの段取りを確認しながら迎えた祝賀会のステージ。会場の温かな空気と一体感に包まれ、胸が熱くなりました。帰国後もなお、その歌は心に響き続け、感動の余韻が波のように押し寄せてきます。今回の巡礼で得た体験は、私の信仰と人生にとってかけがえのない宝物となりました。

1 日ハノイに居残り、夫の昔の同僚の皆さんと会食したのですが、北の都会の日系企業の方々は当然のように無宗教であるらしく、巡礼という概念は全く伝わらなかったようです。まして、日本のごく少数派である私たちが世の光、地の塩としての役割を果たすには？各自が祈り、考え、生きることに加えて、小教区の共同体に求められていることは？今回の巡礼でいただいた恵みの中から、何か見えてくるのか？私個人について言えば、二俣川教会の中で中心的な役割を果たし、積極的に活動しておられる方々に対してちょっと仲間に入りづらいような気後れを感じ、ミサだけ出て帰る人になっていましたが、この度ご一緒させていただき少し距離が縮まった気がする、というレベル。皆が覚えたベトナム語はヒーボン(希望)です。今の自分のことしか考えず、隣人の範囲を狭めて憚らない人が力を持つ分断の時代を、「希望の巡礼者」の連帯が結び直せるよう祈りましょう！

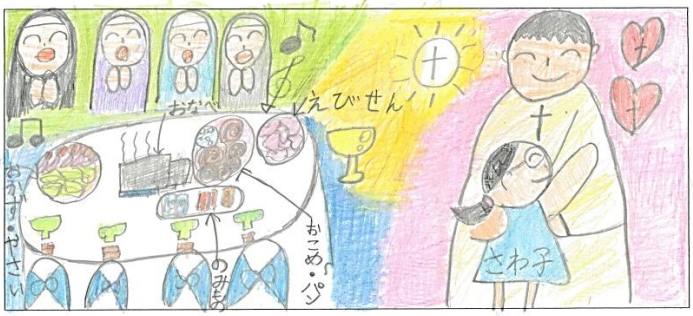
※来月はナン神父様のメッセージ、ナン神父様出身教会での初ミサ写真、ツアー参加者寄稿第 2 弾を掲載予定です。お楽しみに！

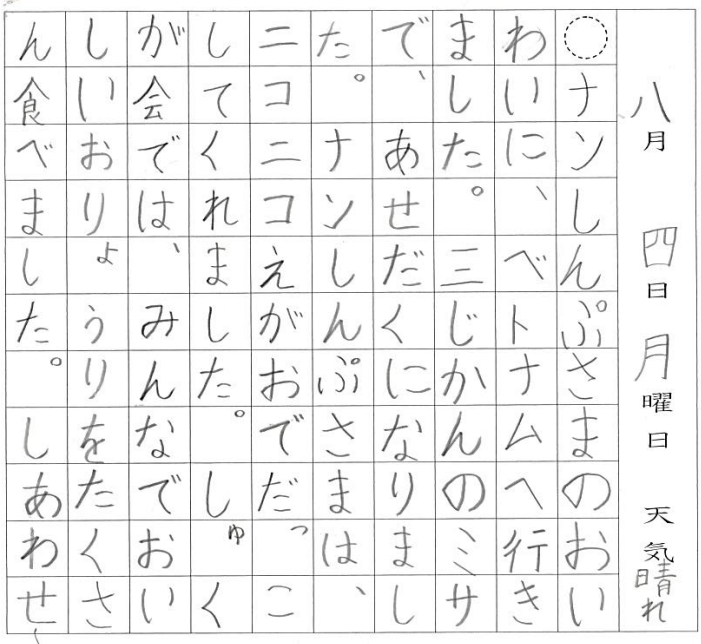
きょうかいがっこうだより

カトリック二俣川教会　教会学校
2025 年 9 月

【9 月の予定】
・9 月 7 日　　教会学校
・9 月 14 日　侍者会
・9 月 21 日　教会学校

皆さん、夏休みを元気に過ごせましたか？
私たちのナン神父さまの司祭叙階式のため、教会学校の楽しい仲間・S ちゃん(小2) がベトナムへお祝いに駆けつけました！楽しかった思い出を、絵日記にしてもらいました♪




八月四日月曜日天気晴れ
○わいしょくでは、ナンさんとしょくじをしました。
ナンさんはとてもやさしくてしんぷさまのようでした。
ナンさんはベトナムからもどってきたばかりなのに、
ベトナムのおいしいものをたくさんもってきてくれました。
ベトナムのおいしいものをたくさんもってきてくれました。
ナンさんはベトナムのことをたくさんはなしてくれました。
ナンさんはベトナムのことをたくさんはなしてくれました。
ナンさんはベトナムのことをたくさんはなし

聖年が、わたしたちの信仰を強め、復活のキリストを生活のただ中で見出す助けとなり
わたしたちキリスト者を希望に満ちた巡礼者に変える力となりますように。

希望に錨を下ろして

18　希望は、信仰と愛とともに、キリスト者の生き方の本質を表す三つの「対神徳」をなしています（一コリント 13・13、一テサロニケ 1・3 参照）。不可分なそれらのダイナミズムの中にあって、希望は、信仰者の生き方の方向と目的を示す、いわば指南役です。ですから使徒パウロは、次のように招いています。「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい」（ローマ 12・12）。そうです。わたしたちは「希望に満ちあふれている」（ローマ 15・13 参照）べきです。それは、わたしたちが心に抱く信仰と愛を、説得力をもって魅力的にあかしするためです。そうすれば、信仰は心弾むものとなり、愛は歓喜となります。またそうすれば、一人ひとりがちょっとしたほほえみ、親しみのしぐさ、兄弟としてのまなざし、真摯な傾聴、無償の奉仕を、受ける人々にとってそれがイエスの霊において豊かな希望の種となることを感じつつ差し出すことになります。しかし、わたしたちの希望の基になるものは何でしょうか。それを理解するため、わたしたちの希望についての説明（一ペトロ 3・15 参照）に注目してみましょう。

19　「わたしは永遠のいのちを信じます(12)」。わたしたちはこう信仰告白しますし、キリスト者の希望はこのことばを根本的な基盤としています。希望はまさしく「対神徳です。この希望の徳によってわたしたちは、……わたしたちに幸せをもたらしてくれる……永遠のいのちを待ち望みます(13)」。第二バチカン公会議は、こう断言しています。「神という基礎と永遠のいのちに対する希望が欠けるとき、今日しばしば見られるように、人間の尊厳はひどく傷つけられ、生と死、罪と苦しみの謎は解けないままであり、その結果、絶望に陥る人も少なくない(14)」。けれどもわたしたちは、自分を救ってくれた希望のおかげで、過ぎ去る時を見て、人類の歴史と一人ひとりの人生は、行き止まりや暗黒の深淵に向かっているのではなく、栄光の主にお会いすることに向かって進んでいるという確信を得ています。ですから、主の再臨を待ち望みつつ、主において永遠に生きるという希望のうちに、日々を送りましょう。この精神をもって、聖書を締めくくることばである、最初のキリスト者たちの感動的な祈りをわたしたちのものといたしましょう。「主イエスよ、来てください」（黙示録 22・20）。

20　死んで復活したイエスは、わたしたちの信仰の心臓です。聖パウロは、わずか四つの動詞で、この内容を述べ、わたしたちの希望の「核心」を伝えています。「もっとも大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたした

ちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後 12 人に現れたことです」（一コリント 15・3―5）。キリストは、死んで、墓に葬られ、復活し、出現した―。このかたは、わたしたちのために死の惨劇を経たのです。御父の愛が、聖霊の力によってこのかたを復活させ、その人性をわたしたちの救いのための永遠の初穂とされました。キリスト者の希望は、まさにここにあります。つまり、すべてが終わると思われる死を前にわたしたちは、キリストのおかげで、洗礼のときに授けられた恵みによって、「いのちは取り上げられるのではなく、変容されるのです(15)」、永遠に、という確信を与えられています。まさしく洗礼においてキリストとともに葬られたわたしたちは、復活したキリストのうちに、新しいいのちのたまものを授かります。そのいのちは、死の壁を破り、永遠へと向かう通路となるのです。

最愛の人と引き離される、つらい別れである「死」を前にしては、どんなことばも意味をなしません。ですが聖年は、その惨劇を変容することのできる、洗礼で授かった新たないのちのたまものを、深い感謝の心をもって再発見する機会を与えてくれるでしょう。聖年の文脈で、信仰の最初の数世紀以来、この神秘がどのように理解されたかをあらためて考えることは大切です。たとえば長い間、キリスト信者は洗礼槽を八角形に造ってきました。今日でも、ローマのサン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノにあるような、八角形の古い洗礼堂の数々を見ることができます。このことは、洗礼の泉において八日目、すなわち復活の日が始まることを示しています。八日目は、七日ごとに巡る通常の周期を超越する日で、これによって永遠の次元、永遠のいのちへと開かれます。これこそ、わたしたちが地上の旅路で目指すものです（ローマ 6・22 参照）。

この希望についての、もっとも説得力あるあかしを与えてくれるのは殉教者たちです。彼らは、復活したキリストに対する揺るぎない信仰をもち、主を裏切らないためにと、地上のいのちを放棄することができたのです。彼らは、終わりのないいのちの証聖者として、いつの時代にも大勢存在していて、わたしたちの時代には、おそらくかつてないほど存在しています。わたしたちの希望を実りあるものにするには、彼らのあかしを守り抜かなければなりません。

キリスト教のさまざまな伝統に属するこの殉教者たちは、一致のための種子でもあります。彼らは血のエキュメニズム（教会一致）を体現しているからです。そのためわたしは、聖年の間に必ずエキュメニカルな祭儀を行い、彼ら殉教者のあかしの豊かさをはっきり示したいと強く願っています。

12. 「使徒信条」（H. Denzinger – A. Schönmetzer, Enchiridion Symbolorum definitionum et declarationum de rebus fidei et morum, n. 30［前掲書 10 頁参照］）。
13. 『カトリック教会のカテキズム』1817。
14. 第二バチカン公会議『現代世界憲章』21。
15. 『ローマ・ミサ典礼書（2002 年規範版）』死者のための叙唱―。

《 今月の意向 》　■９月

教皇の意向：　**すべての被造物と私たちとの関係**
聖フランシスコの霊性にならい、神に愛され尊重されるべきすべての被造物と私たちとの関係が、互いに影響を及ぼし合っていることを体験できますように。

日本の教会の意向：　**高齢者**
高齢者のこれまでの労苦がねぎらわれ、いただいたいのちを神の恵みのうちに受け取ることができますように。

（カトリック中央協議会ウェブサイトより）

＊＊＊